

だい じょう さい 大嘗祭と日本人

基層文化から日本を問い直す

大嘗祭が古代天皇国家の祭祀として登場したのは、600年代末ごろです。

その祭祀が1300年以上もあとの、
近代国家日本の21世紀にも挙行されます。

600年代末ごろの古代天皇制は、武力王・行政王としての男性原理的側面と、神話王・呪術王・祭祀王といういわば文化王としての女性原理的側面との合体で成立しました。しかし、藤原氏の台頭やのちの武士政権の登場によって、天皇制は徐々に武力王・行政王の側面を失い、文化王として存続しました。

文化王として欠かすことのできない大嘗祭の源は、縄文時代以来の女性神聖視の基盤や、弥生時代の卑弥呼的女性シャーマンの伝統と、長江流域以南の稲作儀礼にあります。その基層には、土着の民俗文化と層を同じくするアニミズム系文化の残像があると考えています。



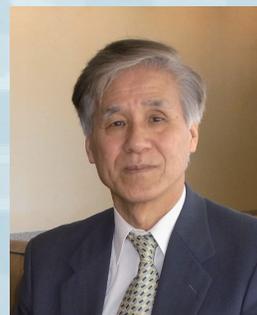
造酒児（サカツコ）。稲・酒や斎場造営にかかわる全ての局面で最初に手を下す神聖視された童女。（『儀式』では「造酒童女」）（『大嘗会図抄』本文20）
東京国立博物館蔵 TNM ImageArchives

2018年4月24日（火）

19:00～20:30（18:30開場）

講師 **工藤 隆**（くどう たかし）大東文化大学名誉教授

1942年栃木県生まれ。東京大学経済学部卒業、68年早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了、78年同博士課程単位取得退学。大東文化大学文学部日本文学科講師・助教授・教授を経て、現在同大名誉教授。専攻、日本古代文学。1995.4～1996.3中国雲南省雲南民族学院・雲南省民族研究所客員研究員。著書に、『日本芸能の始原的研究』（三一書房、1981年）、『大嘗祭の始原』（三一書房、1990年）、『古事記の生成』（笠間書院、1996年）、『四川省大涼山イ族創世神話調査記録』（大修館書店、2003年）、『雲南省ペー族歌垣と日本古代文学』（勉誠出版、2006年）、『古事記の起源』（中央公論新社、2006年）、『歌垣の世界』（勉誠出版、2015年。日本歌謡学会第33回志田延義賞受賞）、『大嘗祭』（中央公論新社、2017年）ほか。



■会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）

■定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）

■参加費：1,000円

■申込み：電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）、来館（1階受付）

いずれかにて、①講座名、②お名前（よみがな）、③電話番号をご連絡ください。

※小学生以下のお子さまが参加される場合、保護者の同伴が必要です。（同伴者の方にも参加費が必要です）

【臨時休館日について】

千代田区立図書館は図書館システムリプレイスのため、平成30年3月4日（日）～13日（火）まで、全館臨時休館します。期間中は日比谷カレッジの参加申込受付（電話、メール、来館）も中止とさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いします。



千代田区立 日比谷図書文化館

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4

都営地下鉄

東京外口

JR 線

●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分

●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分

●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分

●新橋駅「日比谷口（SL広場）」徒歩10分